

～東京近郊の小中学生 400 人に聞く～

【第4回】子どもの食生活の意識と実態調査

第1回調査（2005年）・第2回調査（2011年）・第3回調査（2016年）との比較レポート

食事の時は「家族と話をする」が約9割で、約7割が「料理は残さず食べる」ことを心がける
この1年で印象に残った食のニュースは「コロナ禍で大変な飲食店」「食品ロス」で約6割

I. 小中学生の食事の実態

- ◆ **家で毎日夕ごはんを食べる子どもが9割超（93.0%）**
夕食を「父親」と一緒に食べる人が10ポイント以上増加（前回44.8%→今回58.0%）
- ◆ **家の料理で好きなメニュー、1位「ハンバーグ」（74件）、2位「唐揚げ」（47件）**
3位「カレー」（44件）は前々回、前回の2位からワンランクダウン
- ◆ **好きな料理、おかずを作るのは「母親」が9割（90.5%）、「父親」1割未満（3.3%）**
- ◆ **手作り以外の食事が出る家庭は6割強（61.3%）**
手作り以外の食事が前回より増加（53.5%→61.3%）、頻度も増加（週1.5回→1.8回）

II. 食生活に関する意識と実態

- ◆ **食事の時は「家族と話をする」9割弱（86.0%）、「テレビを見る」8割弱（75.8%）**
食事の時の会話の内容は「学校で起きたできごと」（75.8%）と「友だちのこと」（52.8%）
- ◆ **食事を残すのは「もったいない」と感じる子どもが7割弱（69.5%）**

III. “食育”に関する意識と実態

- ◆ **料理や食べ物、食べ方について学ぶのは「母親」（92.5%）、次いで「父親」（60.5%）**
- ◆ **家事参加度が「高い」お父さんの比率は増加（2005年17.7%→2022年45.9%）**
- ◆ **食で心がけていることのトップ「料理は残さず食べる」7割（70.5%）**
他に、「ごみをきちんと分別」（57.8%）、「エコバッグを使用する」（52.0%）が過半数

IV. “食の安全性”に関する意識と実態

- ◆ **食の安全に“関心がある”子どもが6割以上（62.3%）**
- ◆ **印象に残った“食”のニュース「コロナ禍で大変な飲食店」（57.8%）、「食品ロス」（57.5%）**

V. 学校生活における“食”と“農”に関する意識と実態

- ◆ **好きな給食 1位「カレー」（78件）、2位「揚げパン」（75件）が安定の人気**
- ◆ **給食に地元の食材が「出る」が増加傾向（2005年28.6%→2022年57.3%）**
- ◆ **学校でお米や野菜を育てた感想は「たのしい」が依然トップ（59.8%）**
「むずかしい」、「たいへん」も4割強で、農業の楽しさと難しさ両面を学ぶ機会に

◇はじめに◇

農林中央金庫では、『世代をつなぐ食』その実態と意識（2004年）から、各世代を対象に食に関する調査を継続して実施しています。本年は小中学生を対象に、“食”に関する意識と実態を探ることを目的に調査を実施しました。第1回調査（2005年）、第2回調査（2011年）、第3回調査（2016年）とも比較しながら、この間の意識の変化も探っています。調査対象は、東京近郊の小学生の男女各100人、中学生の男女各100人の計400人、調査期間は2022年3月11日から3月22日です。

◇調査結果まとめ◇

今回の調査を過去調査と比較すると、「父親」と一緒に夕食を食べる割合（前回44.8%→今回58.0%）が増加、給食を「みんなで食べると楽しい」（同58.5%→同45.2%）の減少など、コロナ禍の影響を随所に感じる結果となっています。

朝食を「毎日食べる子ども」は8割（83.8%）、夕食は9割（93.0%）を超えています。好きなおかずは「ハンバーグ」（74件）が2位以下の「唐揚げ」（47件）、「カレー」（44件）などを大きく引き離してトップとなっています。「夕ごはん」に“手作り以外のもの”が出る家庭は6割強（61.3%）に達し、前回（53.5%）より増えたばかりでなく、頻度も週平均「1.5回」から「1.8回」へ増加しています。

食事中の会話の内容は「学校で起きたできごと」（前回79.8%→今回75.8%）と「友だちのこと」（同59.8%→同52.8%）と上位の順位は変わらないものの比率は減少しており、コロナ禍で学校や友だちと過ごす時間が減ったことが影響している可能性があります。

食育（料理や食べ物、食べ方について、誰から、何から学んできたか）も順位や傾向に変動はないものの、「母親」（前回93.0%→今回92.5%）と「テレビ番組」（同25.5%→同19.8%）が減少したのに対し、「父親」（同58.8%→同60.5%）と「インターネット」（同8.0%→同10.3%）が微増するなどの変化がみられます。

家事の手伝いでは、17年前に比べると「食器をならべる、料理を運ぶ」（2005年57.8%→2022年71.8%）、「食事後の食器を運ぶ」（同49.5%→同65.3%）、「食事のしたく」（同24.8%→同49.8%）と参加率に伸びがみられます。また、家事参加度が「高い」とされる父親（同17.7%→同45.9%）も増加しています。

食の問題への取り組みでは「料理は残さず食べる」（70.5%）、「ごみをきちんと分別して捨てる」（57.8%）、「エコバッグを使用する」（52.0%）などが過半数となっています。

食の安全に“関心がある”子どもは6割（62.3%）に達しており、過去1年の印象的なニュースとして「コロナ禍で大変な飲食店」（57.8%）と「食品ロス」（57.5%）を挙げる子どもが6割近くに達しています。

学校に「給食がある」のは9割（90.3%）に達し、給食で“好きな料理”は「カレー」（78件）がトップ、次いで「揚げパン」（75件）となっています。また、給食に地元の食材が「出る」と答えた人は、17年前に比べ増加（2005年28.6%→2022年57.3%）しています。

学校でお米や野菜を育てた経験が「ある」と答えた人は8割超（83.3%）、感想では「楽しい」が6割弱（59.8%）と最も多く、次いで「むずかしい」・「たいへん」が4割強（ともに40.5%）となっており、農業の楽しさと難しさ両面を学ぶ機会になっています。



以下は、調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ（<https://www.nochubank.or.jp/efforts/research.html>）に掲載の調査報告書をご参照ください。

I. 小中学生の食事の実態

1. 週に朝ごはんを食べる回数は？ 誰と食べる？

- ◆ 朝食を「毎日食べる子ども」は 8 割(83.8%)、平均は週に 6.5 回
- ◆ 一緒に食べる人のトップは「きょうだい」で 6 割(60.3%)

週に朝食を食べる回数を聞いたところ、「毎日」が 8 割強 (83.8%) で、以下「5・6 回」(9.3%)、「3・4 回」(3.0%)、「食べない」(2.5%)、「1・2 回」(1.5%) と続きます。朝食を食べる回数の週平均は「6.5 回」でした。

「毎日」食べる人は、《中学生》(79.0%) より《小学生》(88.5%) の方が 10 ポイント近く高くなっています。

朝食を一緒に食べる人は、「きょうだい」(60.3%) がトップで 6 割以上です。次いで「母親」(50.0%) が 5 割と多く、「父親」(26.4%) は 2 割台でした。一方で、3 割近くの子どもが「ひとりで」(27.2%) 食べています。

過去調査比較： トップ項目などの傾向は変わらないものの、比率は減少傾向

2016 年の前回調査と比較すると、朝食を「毎日」食べる子どもは、前回 88.0%→今回 83.8% とやや下がっています。一緒に食べるトップ「きょうだい」も、前回 67.7%→今回 60.3% とやや減少しました。

2. 朝ごはんによく食べているものは？

- ◆ 朝のメニューは、トップが「パン」(79.5%)、2 位が「ごはん」(67.4%)
- ◆ 小学生は 8 割以上(85.4%)が「パン」、中学生はほぼ 7 割(69.1%)が「ごはん」

朝食のメニューを複数回答で聞くと、トップは「パン」(79.5%) でほぼ 8 割に達し、「ごはん」(67.4%) も 7 割近くで拮抗しています。

小中学生ともに「パン」が多いのですが、特に《小学生》では「パン」(85.4%) が「ごはん」(65.8%) を約 20 ポイント上回っています。一方、《中学生》では「ごはん」がほぼ 7 割 (69.1%) に達し、差が小さくなります。

過去調査比較： 朝食に「ごはん」を食べる人は微減

「パン」(前回 72.0%→今回 79.5%) がやや増加、「ごはん」(同 70.5%→67.4%) がやや減少しました。

3. 家で夕ごはんを食べる回数は？ 誰と食べる？

- ◆ 家で毎日夕ごはんを食べる人は9割超(93.0%)
- ◆ 夕ごはんと一緒に食べるのは、「母親」(88.8%)、「きょうだい」(80.8%)が8割台

家で週に何回くらい「夕ごはん」を食べているかを聞くと、「毎日」(93.0%)が9割を超えています。次いで、「5・6回」(6.0%)、「3・4回」(1.0%)など“食べない日がある”(7.0%)という人も若干います。平均は、週に「6.9回」です。

誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いかはトップが「母親」(88.8%)、次いで「きょうだい」(80.8%)がともに8割台で多くなっています。

「父親」(58.0%)は6割近く、「ひとりで」(13.8%)食べるというケースもみられます。「父親」は「母親」「きょうだい」と比べて低いものの、“朝ごはん”に比べて26.4%→58.0%と20ポイント以上増えています。

過去調査比較：「父親」と一緒に食べる割合が大幅増

前回調査と比べると、「父親」(前回44.8%→今回58.0%)の割合が今回大きく増えました。コロナ禍で父親が家にいる時間が増えたことが、影響しているものと思われます。

4. 家の夕ごはんでは好きな料理・おかずは何？

- ◆ 1位「ハンバーグ」(74件)、2位「唐揚げ」(47件)、3位「カレー」(44件)

家の夕ごはんでは好きな料理、おかずを一品挙げてもらったところ、「ハンバーグ」(74件)が圧倒的な人気で、以下「唐揚げ」(47件)、「カレー」(44件)、「ギョウザ」(22件)、「オムライス」(20件)、「シチュー」(12件)、「肉じゃが」(11件)などの順となっています。

表1. 家の夕ごはんでは好きな料理、おかず(自由回答：複数回答)

順位		件数	男子	女子
1位	ハンバーグ	74	37	37
2位	唐揚げ	47	29	18
3位	カレー	44	31	13
4位	ギョウザ	22	10	12
5位	オムライス	20	8	12
6位	シチュー	12	4	8
7位	肉じゃが	11	5	6
8位	グラタン	8	2	6
	味噌汁	8	2	6
10位	サラダ	7	1	6

過去調査比較：「カレー」が2位から3位に後退

2011年、2016年の調査では「ハンバーグ」と「カレー」がトップ2でしたが、今回のトップ2は「ハンバーグ」と「唐揚げ」で、「カレー」が3位に後退しました。

5. タごはんのおかずを作るのは誰？

- ◆ 好きな料理・おかずを作るのは「母親」(90.5%)が 9 割
- ◆ 「父親」(3.3%)と大差

前述の好きな料理、おかずは誰が作ったものか聞いてみたところ、「母親」(90.5%)が9割と多く、「父親」(3.3%)、「スーパー・デパートなどで買った」(2.3%)、「祖母・祖父」(2.0%)、「冷凍食品」(1.3%)、「自分で」(0.5%)と続きます。

過去調査比較： 前回は母親だが微減(94.0%→90.5%)

2016年の前回は「母親」(94.0%)が圧倒的首位ですが、比率は今回「母親」(90.5%)が若干少なくなっています。

6. 家のタごはんに手作り以外のものは週何回くらい出る？

- ◆ 手作り以外のものが“出る”家庭は 6 割強(61.3%)
- ◆ その頻度は週に「1・2回」(43.3%)が 4 割強、「3・4回」(11.3%)が 1 割
- ◆ 平均は週に「1.8 回」

家の「タごはん」に、「スーパー・デパートなどで買ったおかず」や「冷凍食品」など“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか聞いたところ、週に「1・2回」(43.3%)、「3・4回」(11.3%)など、“出る”という人が6割強(61.3%)を占めています。

「わからない」と答えた子どもは2割(20.0%)でした。

「出ない」と“手作り度が高い”家庭は2割弱(18.8%)です。平均は週に「1.8回」です。

過去調査比較： 手作り以外のものが出る頻度がやや増

前回より“出る”が増え(前回 53.5%→今回 61.3%)、平均も、週に前回「1.5回」→今回「1.8回」と、手作り以外のものが出る頻度は増加傾向にあります。

Ⅱ. 食生活に関する意識と実態

1. 家で食事の時にしていることは？

◆ 「家族と話をする」(86.0%)が9割超、「テレビを見る」(75.8%)も7割超

子どもたちが家で食事の時にすることとしては、「家族と話をする」(86.0%)と「テレビを見る」(75.8%)の2つが大多数を占めています。“テレビを見たり話をしながら”が食卓の風景としてすっかり一般化しており、これは6年前の前回調査と同じ傾向です。

少数派ですが、「だまって食べているだけ」(7.5%)、「音楽をきく」(7.0%)、「携帯電話・スマホで話す、メールをする」(6.0%)などもみられます。

なお、《中学生》では8割近くが「テレビを見る」(78.5%)と回答し、同1割近く(9.0%)が「だまって食べているだけ」と回答しています。

過去調査比較：「テレビを見る」は減少傾向

2011年、2016年の調査と比較すると「テレビを見る」(77.8%→79.8%→75.8%)は若干減少しています。

2. 食事の時、家族と何を話す？

- ◆ 1位「学校で起きたできごと」(75.8%)、2位「友だちのこと」(52.8%)
- ◆ 3位は「テレビ番組やタレントのこと」(45.3%)
- ◆ 中学生は「クラブ活動」(32.5%)、「ニュース」(28.0%)が約3割

食事の時の会話の内容は、「学校で起きたできごと」(75.8%)と「友だちのこと」(52.8%)が多く、続いて「テレビ番組やタレントのこと」(45.3%)、やや差があって「ニュース」(23.8%)、「クラブ活動」(22.8%)、「家族や親戚のこと」(21.0%)、「スポーツ」(18.3%)などでした。

《小学生》と《中学生》でトップ3は同じ順番でしたが、《中学生》は「クラブ活動」(32.5%)が3割を超え、4位「ニュース」(28.0%)も3割近くと全体より多い割合で、話題が多岐にわたっていることがうかがえます。

過去調査比較：食卓の話題は、学校のことと友だちのことが中心も若干減少傾向

2011年、2016年の調査と比較すると「友だちのこと」(59.5%→59.8%→52.8%)が減少、「学校で起きたできごと」(74.5%→79.8%→75.8%)も前回より若干減りました。コロナ禍で学校で過ごす時間が減ったことも、こうした傾向に影響している可能性があります。

3. おかずとご飯は交互に食べる？

- ◆ 「おかずとご飯を交互に食べる」子どもが大多数(77.3%)
- ◆ 「おかずだけ先に食べる」(13.5%)、「ごはんにふりかけをかける」(13.5%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(13.0%)も1割超

食事の食べ方では、「おかずとご飯を交互に食べる」(77.3%)が8割近くと多い中で、「おかずだけ先に食べる」(13.5%)、「ごはんにふりかけをかける」(13.5%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(13.0%)もいずれも1割を超えています。

「おかずから嫌いなものを選び分ける」(8.0%)、「ごはんだけ先に食べる」(6.5%)も少数派ですがみられました。

過去調査比較：前回に比べ「おかずとご飯を交互に食べる」子どもは減少

前回調査に比べると、「おかずとご飯を交互に食べる」(82.0%→77.3%)は減少し、「おかずだけ先に食べる」(12.8%→13.5%)、「ごはんにふりかけをかける」(10.5%→13.5%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(11.0%→13.0%)が増加しています。

4. 食事を残すことがある？ 残してしまったらどう思う？

- ◆ 「いつも残す」(1.8%)、「時々残す」(42.0%)の“残すことがある”4割超(43.8%)
- ◆ 残すのは「もったいない」(69.5%)、「作ってくれた人に悪い」(61.5%)が6割超

1) 食事を残すことがある？

食事を「いつも残す」(1.8%)は少ないものの、「時々残す」(42.0%)はかなり多く、合わせて4割を超える子どもが“残すことがある”(43.8%)と答えています。

“残すことがある”は、男子(41.0%)より女子(46.5%)に多く、《中学生》(39.0%)より《小学生》(48.5%)に多くなっています。

過去調査比較：「残すことがある」は前回より増、特に男子で増加

前回調査と比べると、“残すことがある”(39.5%→43.8%)が増加しています。なお、これは男子(32.5%→41.0%)に限った傾向であり、女子(46.5%→46.5%)は変化していません。

2) 残してしまったらどう思う？

食事を残すことには、「もったいない」(69.5%)、「作ってくれた人に悪い」(61.5%)が6割を超えています。「食べきれない時は仕方がない」(26.3%)、「きれいなものは仕方がない」(16.8%)など、“仕方がない”という意見も少なからずみられます。

過去調査比較：「もったいない」「作ってくれた人に悪い」と思うは増加

「もったいない」(67.8%→69.5%)、「作ってくれた人に悪い」(59.8%→61.5%)と思う子どもは、いずれも前回調査に比べ増えています。

Ⅲ. “食育”に関する意識と実態

1. 料理や食べ物、食べ方について、誰(何)から学んできた？

◆ 「母親」(92.5%)が圧倒的多数、次いで「父親」(60.5%)と“両親”から学ぶ人が多い

料理や食べ物、食べ方について、誰から、何から学んできたかを聞くと、「母親」(92.5%)からが圧倒的に多く、次いで「父親」(60.5%)と“両親”から学んできた人が大多数を占めます。以下「先生」(37.8%)、「学校の栄養士」(21.8%)、「テレビ番組」(19.8%)、「きょうだい」(12.3%)が続きます。「インターネット」(10.3%)は1割でした。

過去調査比較：「テレビ番組」が減少、「インターネット」は増加

前回調査に比べても「母親」(93.0%→92.5%)が圧倒的に多く、次いで「父親」(58.8%→60.5%)、「先生」(35.8%→37.8%)と順位や割合はほとんど変わりません。そうした中で、「テレビ番組」(25.5%→19.8%)が減少、「インターネット」(8.0%→10.3%)が増加しているのは、やや目を引きます。

2. 家で食べ物や食事について守るように言われているのはどんなこと？

◆ 「食卓に肘をつかない」(72.8%)と「好き嫌いをしない」(61.8%)がトップ2

「食事中に電話やメールをしない」(11年前 34.0%→今年 52.0%)が大きく増加

食べ物や食事について、家で“しつけ面”から守るように言われていることは、「食卓に肘をつかない」(72.8%)が最も多く、次いで「好き嫌いをしない」(61.8%)が続きます。

以下、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(56.3%)、「食べ物を粗末にしない」(53.0%)、「食事中に電話やメールをしない」(52.0%)、「はしを正しく持つ」(50.8%)が、半数以上の割合で挙げられています。

過去調査比較：「食事中に電話やメールをしない」が増加

2011年、2016年の調査と比べると、「食事中に電話やメールをしない」(34.0%→48.5%→52.0%)が大きく増加しているのが注目されます。

3. 『おはし』を正しく持っている？

◆ おはしを「正しく持っている」子どもが、4人に3人以上(76.0%)

『おはし』を正しく持っているか、イラストを参照して自己判断してもらいました。その結果、「正しく持っている」という人は76.0%と4人に3人以上の割合でした。

《小学生》(75.0%)と《中学生》(77.0%)の間に大きな差はありませんでした。

過去調査比較：17年前に比べ、「正しく持っている」子どもは大幅増

17年前の2005年調査に比べると、おはしを「正しく持っている」子どもの人数は大幅に増加しました(2005年58.0%→2022年76.0%)。

4. 食べ物や食事について、行ってきたことは？

- ◆ 「食器をならべる、料理を運ぶ」(71.8%)が7割でトップ
- ◆ “食卓(食事)まわりのこと”は、男子より女子の参加率が高い

「食器をならべる、料理を運ぶ」(男子64.5%、女子79.0%)

「食事後の食器を運ぶ」(男子59.5%、女子71.0%)

「食事のしたく」(男子42.5%、女子57.0%)

「食品の買い物」(男子29.5%、女子40.0%)

「食器を洗う」(男子19.0%、女子35.0%)

食べ物や食事について、これまで行ってきたことは、「食器をならべる、料理を運ぶ」(71.8%)が7割で最も多く、「食事後の食器を運ぶ」(65.3%)が続きます。以降、「食事のしたく」(49.8%)、「食品の買い物」(34.8%)、「お腹を十分にすかせる」(27.0%)、「食器を洗う」(27.0%)などが続きます。

「野菜やくだものを育てる」(15.3%)、「魚つり」(11.5%)、「ぶどう、なし、りんごなどをとる」(9.5%)も1割以上が答えており、いろいろな経験をしていることが窺えます。

性別では、「食器をならべる、料理を運ぶ」(男子64.5%、女子79.0%)、「食事後の食器を運ぶ」(同59.5%、71.0%)、「食事のしたく」(同42.5%、57.0%)、「食品の買い物」(同29.5%、40.0%)、「食器を洗う」(同19.0%、35.0%)など、“食卓(食事)まわり”のことは《男子》より《女子》の方が高率の項目が多く、女子の方が参加率は高い傾向です。

過去調査比較：初回調査(2005年)との比較ではトップ3の回答率が大幅増

17年前の2005年調査に比べると、トップ3の順位は変わらないのですが、「食器をならべる、料理を運ぶ」(2005年57.8%→2022年71.8%)、「食事後の食器を運ぶ」(同49.5%→65.3%)、「食事のしたく」(同24.8%→49.8%)と、回答率では格段の伸びがみられます。

5. お父さんは食べ物や食事のことで何かしている？

- ◆ 「食事後の食器を運ぶ」(50.1%)が約半数でトップ
初回調査 2005 年の「食事後の食器を運ぶ」(16.4%)に比べると大幅増
- ◆ 10 項目中、3 項目以上している家事参加度が「高い」父親は半数近く(45.9%)
初回調査 2005 年の「高い」は 2 割以下(17.7%)

父親のいる子ども (379 人) に、食べ物や食事について父親が何をしているか聞いたところ、「食事後の食器を運ぶ」(50.1%)が約半数でトップでした。次いで、「食器を洗う」(48.0%)、「食品の買い物」(47.2%)、「料理を作る」(43.5%) が 4 割台で続き、「食器をならべる、料理を運ぶ」(36.9%)、「なべ物やプレート (鉄板) 料理の係り」(23.0%) が続きます。

「何もしない」父親は 1 割台 (15.3%) でした。

上記で父親がしていることの数から“家事参加度”をみると、10 項目中 3 項目以上している「高い」にランクされる父親は 45.9%と半数近くに達しています。

過去調査比較：“家事参加度”が「高い」父親が 17 年間で増加

17 年前の 2005 年調査に比べると、子どもからみた父親の家事への参加度は高くなりました。「食事後の食器を運ぶ」(2005 年 16.4%→2022 年 50.1%)、「食品の買い物」(同 19.7%→47.2%)、「料理を作る」(同 33.6%→43.5%) となっています。

こうしたことから、該当項目数が 3 以上の家事参加度が「高い」お父さんの比率も増えていきます (同 17.7%→45.9%)。

6. 食に関する問題でふだん取り組んでいることや心がけていることは？

- ◆ 「料理は残さず食べる」(70.5%)がトップで 7 割
- ◆ 「ごみをきちんと分別して捨てる」(57.8%)が 6 割近く
- ◆ 「エコバッグを使用する」(52.0%)が半数以上
- ◆ 小学生の約 6 割が「ごみをきちんと分別して捨てる」(59.5%)、半数以上が「エコバッグを使用する」(55.0%)

食に関する問題に対し、ふだん取り組んでいることや心がけていることを聞くと、「料理は残さず食べる」(70.5%) が最も多く、次いで「ごみをきちんと分別して捨てる」(57.8%)、「エコバッグを使用する」(52.0%) を半数以上の子どもが挙げています。

回答率は下がりますが、次いで「マイカップ・マイ箸を使用する」(15.3%)、「使い捨て容器を使用しない」(9.0%) などが続きます。

中でも《小学生》の約 6 割が「ごみをきちんと分別して捨てる」(59.5%) と回答、また、「エコバッグを使用する」(55.0%) など、《中学生》より《小学生》のエコ意識の高さが目立ちます。

IV. “食の安全性”に関する意識と実態

1. “食の安全”にどのくらい関心がある？ どんなことに関心がある？

- ◆ 食の安全に“関心がある”子どもが 6 割以上(62.3%)
- ◆ 関心のあることトップは「保存期間」(41.4%)が 4 割
- ◆ 2 位「産地や材料」(36.5%)、3 位「食品添加物」(34.9%)は、いずれも 3 割超
- ◆ 「食品添加物」(46.6%)を挙げた中学生が半数近く
- ◆ 「保存期間」(50.8%)を挙げた小学生が半数以上

“食の安全”にどのくらい関心があるかを聞くと、「とても関心がある」(14.8%)と「まあ関心がある」(47.5%)を合わせた“関心がある”は 6 割 (62.3%) を超えています。

“関心派”(249 人)がどんなことに関心があるのかをみると、「保存期間」(41.4%)が 4 割を超えて最も多く、以下「産地や材料」(36.5%)、「食品添加物」(34.9%)、「異物混入」(30.5%)、「輸入食品」(28.9%)、「農薬」(25.7%)などが続きます。

「食品添加物」は《中学生》(46.6%)の方が《小学生》(22.0%)の 2 倍以上の割合となっている一方、「保存期間」は《小学生》(50.8%)が、《中学生》(32.8%)より 20 ポイント近く高い割合です。

過去調査比較：食の安全に“関心がある”子どもが 17 年間で 10 ポイント以上増加

17 年前の 2005 年調査に比べると、“関心がある”(2005 年 51.5%→2022 年 62.3%)子どもが 10 ポイント以上増加しました。

2. ふだん“安心して食べられる”のは、どんな食べ物・食事？

- ◆ 安心して食べられるのは、「家の食事」(97.8%)がほぼ全員
- ◆ 「給食」(76.5%)は 7 割超、「外食」(34.8%)は 3 割超

ふだん“安心して食べられる”食べ物・食事は何か聞くと、大多数が「家の食事」(97.8%)を挙げました。次いで「給食」(76.5%)も 7 割を超えています。

以下、「外食」(34.8%)、「スナック菓子」(27.8%)、「外で買ってきた惣菜やお弁当」(24.5%)、「インスタント食品」(24.0%)、「ファストフード」(23.5%)が続いています。

一般的に《男子》の方が《女子》より高率を示している項目が多く、特に「外食」(男子 39.5%、女子 30.0%)は 10 ポイント近い差が生じています。「給食」は《小学生》(84.5%)が《中学生》(68.5%)よりも 15 ポイント以上高い一方、「インスタント食品」(同 20.5%、27.5%)、「ファストフード」(同 20.0%、27.0%)は《中学生》の方が高めです。

過去調査比較：全体に増加傾向で、特に給食やインスタント食品は伸びが目立つ

ほとんどの項目で前回調査より高い割合を示しており、中でも「給食」(前回 65.3%→今回 76.5%)や「インスタント食品」(同 14.0%→24.0%)は 10 ポイント以上増えています。

3. 食べ物や食事が“安心して食べられない”と思うのは、どんな時？

- ◆ 8割弱(78.3%)の子どもが“安心して食べられない”と思う時がある
- ◆ 「家族が安心ではないと言う時」(57.0%)がトップで6割近く
- ◆ 「原材料がわからない時」(23.5%)、「不正・偽装などが心配な時」(23.3%)も2割超

8割弱(78.3%)の子どもが“食べ物や食事を安心して食べられない”と思う時が“ある”と答えています。そう思う時のトップは「家族が安心ではないと言う時」(57.0%)が6割近くでした。以下「先生が安心ではないと言う時」(34.8%)、「原材料がわからない時」(23.5%)、「不正・偽装などが心配な時」(23.3%)、「産地がはっきりしない時」(19.3%)、「国産ではない時」(18.8%)、「表示が信用できない時」(15.3%)が続いています。

「家族が安心ではないと言う時」(男子52.0%、女子62.0%)、「原材料がわからない時」(同20.0%、27.0%)など、《女子》の方が高い割合の項目が多くなっています。

また、「先生が安心ではないと言う時」(小学生41.0%、中学生28.5%)は《小学生》が、「原材料がわからない時」(同19.0%、28.0%)は《中学生》が、高い回答率でした。

過去調査比較：「不正・偽装などが心配な時」「国産ではない時」などは減少

前回調査と比べると「不正・偽装などが心配な時」(36.0%→23.3%)、「国産ではない時」(27.0%→18.8%)など、食に関する事件や事故に関わるような項目は全般に減少傾向です。

4. ここ1年間の“食”に関するニュースで、印象に残っていることは？

- ◆ トップ2が「コロナ禍で大変な飲食店」(57.8%)、「食品ロス」(57.5%)で6割近く
- ◆ 「食品ロス」(小学生63.0%、中学生52.0%)
「食料品の値上げ」(同34.5%、26.5%)は小学生の関心が高い
- ◆ 「昆虫食への注目」(同8.5%、19.0%)は中学生の関心が高い

ここ1年間の“食”に関するニュースやキーワードで、印象に残っていることを3つまで挙げてもらったところ、「コロナ禍で大変な飲食店」(57.8%)と「食品ロス」(57.5%)が6割近くでトップ2でした。

以下、少し下がり「食料品の値上げ」(30.5%)、「マリトッツオの流行」(23.0%)、「子ども食堂」(19.5%)、「牛乳の大量廃棄危機」(16.3%)、「大豆ミートなどの肉の代替食品」(15.8%)、「食品企業・団体のSDGsへの取り組み」(14.0%)、「昆虫食への注目」(13.8%)など、多岐にわたるニュースが印象に残っています。

「食品ロス」(小学生63.0%、中学生52.0%)、「食料品の値上げ」(同34.5%、26.5%)は《小学生》の方が、「昆虫食への注目」(同8.5%、19.0%)は《中学生》の方が、高い割合を示しています。

V. 学校生活における“食”と“農”に関する意識と実態

1. 給食は好き？ 給食の感想は？

- ◆ 給食が「好き」な子どもが 7 割超(71.2%)
- ◆ 給食が「おいしい」(73.7%)が 7 割超
- ◆ 「家で食べないメニューを食べることができる」(49.3%)が約半数

学校給食の有無を聞くと、「給食がある」は、《小学生》ではほぼ全員（97.5%）ですが、《中学生》（83.0%）も 8 割を超えており、全体では 9 割（90.3%）です。

“給食を食べている”人（361 人）に、好き嫌いを聞くと「好き」（71.2%）が 7 割強でした。「好き」は《男子》（69.1%）よりも《女子》（73.4%）の方がやや多く、《小学生》では 4 人に 3 人が「好き」（75.4%）ですが、《中学生》（66.3%）では《小学生》を 10 ポイントほど下回っています。

学校給食への感想は、「おいしい」（73.7%）が最も多く、次いで「家で食べないメニューを食べることができる」（49.3%）が約半数で、以下、「みんなで食べると楽しい」（45.2%）、「バラエティに富んでいる」（18.6%）といった“良いイメージ”が続いています。

半面、「量が多い」（13.9%）、「お弁当のほうがいい」（13.0%）、「おいしくない」（7.5%）、「量が少ない」（4.7%）と感じている人もいます。

《小学生》では「おいしい」（81.5%）が 8 割を超えていますが、《中学生》（64.5%）では 20 ポイント近く低くなっています。また、「家で食べないメニューを食べることができる」（同 54.4%、43.4%）、「みんなで食べると楽しい」（同 52.3%、36.7%）なども《小学生》の方がかなり高く、《小学生》の方が学校給食に対して良いイメージを持っています。

過去調査比較：給食を「好き」な女子、中学生が増加 「おいしい」は全体的に増加

17 年前の 2005 年調査に比べると、「給食がある」（2005 年 69.0%→2011 年 74.8%→2016 年 74.8%→2022 年 90.3%）と答えた子どもの数は継続的に増加傾向です。好き嫌いでは、「好き」（同 55.1%→72.2%→66.6%→71.2%）と最近では 6～7 割で推移しています。

2016 年の前回調査に比べると、男女では、男子が若干減った（71.1%→69.1%）のに対し、女子が 10 ポイント以上増えました（62.0%→73.4%）。また、小学生では「好き」は横ばいですが（75.0%→75.4%）、中学生では 10 ポイント以上増加しています（49.5%→66.3%）。感想トップの「おいしい」は約 10 ポイント増でした（63.9%→73.7%）。こうした中、「みんなで食べると楽しい」（58.5%→45.2%）だけは大きく減っており、コロナ禍でソーシャルディスタンスを保つための黙食が求められた影響がうかがい知れます。

2. 給食の好きなメニューと嫌いなメニューは？

- ◆ “好きな料理”1位「カレー」(78件)、2位「揚げパン」(75件)が突出した人気
- ◆ “嫌いな料理”は「特になし」(81件)が最多、次いで「魚料理」(34件)や「サラダ」(22件)

給食メニューで“好きな料理”は、「カレー」(78件)がトップ、次いで「揚げパン」(75件)が圧倒的な人気メニューとなっており、3位以下はやや差が開いて「スープ」(14件)、「唐揚げ」(13件)、「ハンバーグ」(10件)、「焼き魚、煮魚」(9件)と続きます。

“嫌いな料理”は、「特になし」(81件)が多いですが、「魚料理」(34件)、「サラダ」(22件)、「野菜全般」(15件)、「パン(揚げパン、ぶどうパンなど)」(12件)、「トマト、トマト味のもの」(11件)、「きのこ(しめじ、なめこなど)」(10件)などが続いています。

過去調査比較：給食では、いつの時代も常に「カレー」が圧倒的な一番人気

2016年調査は「カレー」(85件)、「揚げパン」(50件)がトップ2、2011年調査は「カレー」(66件)、「揚げパン」(42件)がトップ2、2005年調査は「カレーライス」(51件)、「ラーメン」(20件)がトップ2でした。

3. 給食に地元(自分が住んでいる地域)の食べ物や材料が出てくる？

- ◆ 給食に地元の食べ物や材料が「出る」(57.3%)、「わからない」(41.6%)

給食に地元(自分が住んでいる地域)の食べ物や材料が出てくるか聞いてみたところ、「わからない」と答えた人が4割強(41.6%)で、6割近い人が「出る」(57.3%)と答えています。《小学生》は6割強(62.1%)、《中学生》は5割強(51.8%)で、《小学生》の方が多くなっています。

過去調査比較：地元の食材が大幅に増加

17年前の2005年調査に比べると、地元の食材が「出る」と答えた人が大幅に増加しており(2005年28.6%→2011年39.5%→2016年47.5%→2022年57.3%)、給食における地産地消が着実に進んでいることがわかります。

4. お米や野菜を育てた経験は？

- ◆ 学校でお米や野菜を育てたことが「ある」(83.3%)が大多数を占める
- ◆ 育てたもののトップは「トマト、ミニトマト」(143件)、2位が「お米」(113件)

1) お米や野菜を育てた経験は？

学校でお米や野菜を育てたことがあるか聞いてみたところ、「ある」(83.3%)が圧倒的多数を占め、お米や野菜を育てることを通じた食育が普遍化していることがわかります。

2) 育てたものは？

学校で育てたのは「トマト、ミニトマト」(143件)がトップ、2位が「お米」(113件)で、以下「なす」(34件)、「さつまいも」(28件)、「きゅうり」(27件)と続きます。

3) お米や野菜を育ててみたい？

学校でお米や野菜を育てた経験が“ない”人(67人)に、育ててみたいと思うか聞いてみたところ、「思う」(49.3%)という人が半数でした。

過去調査比較：お米や野菜を育てたことが「ある」は17年前から大幅増

学校でお米や野菜を育てたことが「ある」(2005年62.3%→2011年76.8%→2016年84.5%→2022年83.3%)は、前回より若干減りましたが、この17年間では大幅に増えていることがわかります。

5. お米や野菜を育てた感想は？

- ◆ 「楽しい」(59.8%)が6割
- ◆ 「むずかしい」(40.5%)、「たいへん」(40.5%)が4割

学校でお米や野菜を育てたことが「ある」という人(333人)に、育ててみてどう思ったか聞いてみたところ、「楽しい」(59.8%)が最多でしたが、「むずかしい」(40.5%)や「たいへん」(40.5%)も4割に達しており、農業の大変さや難しさを知るいい機会になっているようです。

「楽しい」と答えた《小学生》は7割近く(68.6%)で、《中学生》(50.3%)よりも高率でした。

過去調査比較：「楽しい」と感じる子どもが17年前に比べ大幅増

育ててみた感想は「楽しい」が常にトップなのは変わりませんが、その割合は大幅に増加しています(2005年37.3%→2011年57.7%→2016年55.6%→2022年59.8%)。

VI. 過去の調査

農林中央金庫では、2004年から「食」に関する調査を実施してきました。

本資料は今回の調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ (<https://www.nochubank.or.jp/efforts/research.html>) に掲載されていますので、ご参照ください。

これまでの食に関する調査

発表年月	調査タイトル	調査対象
2021年4月	第4回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30代から50代の母親
2020年4月	第3回現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2019年4月	昭和世代と平成世代の「食」習慣に関する調査	東京近郊の20代、40代、60代の男女
2018年5月	第3回現代の父親の食生活、意識と実態調査	東京近郊の30代、40代の父親
2017年5月	第3回現代高校生の食生活、意識と実態調査	東京近郊の高校生
2016年5月	第3回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2015年4月	第3回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30代から50代の母親
2014年4月	第2回現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2013年4月	第2回現代の父親の食生活、意識と実態調査	東京近郊の30代、40代の父親
2012年4月	第2回現代高校生の食生活、意識と実態調査	東京近郊の高校生
2011年6月	第2回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2010年4月	第2回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30～50代の母親
2008年3月	現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2007年3月	現代の父親の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の30代、40代の父親
2006年3月	現代高校生の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の高校生
2005年2月	親から継ぐ『食』、育てる『食』	小学校4年生～中学校3年生
2004年2月	『世代をつなぐ食』その実態と意識	子どもを持つ30～59歳の主婦

<本件に関するご照会先>

農林中央金庫

企画管理部広報財務IR班：宮澤、水元

〒100-8155 東京都千代田区大手町1-2-1

Otemachi One タワー

TEL. 03-6362-7172